

# 製造・DX戦略

## 付加価値のさらなる向上

創業以来培ってきたHMI、安全に関する知見を活かし、高品質・高信頼性の製品をグローバルに提供しています。また生産設備を自社の生産技術部門で企画・開発し、品質や生産効率の向上、自動化を推進しています。

関連するマテリアリティ

- 生産性向上
- 安全・安心・ウェルビーイング

## グローバルでの生産性・業務効率の向上

グローバルでの事業拡大と収益向上を実現するために、全社で構造改革を推進しており、2023年度に大幅な組織変更を行いました。APEMの社長である、執行役員Marc Enjalbertが生産担当となり、IDECグループ全体の生産効率の向上や、コスト削減、顧客サービスの向上を図っていくための戦略の立案などを行っています。また、品質とコスト改善に向けて、抜本的な生産体制・プロセスの見直しにも着手しています。

2024年度には、生産本部内にコアコンピタンスセンターを新設しました。センターのヘッドクォーターは日本と欧州に設置し、グローバルで生産を強化するための機能を集約しています。



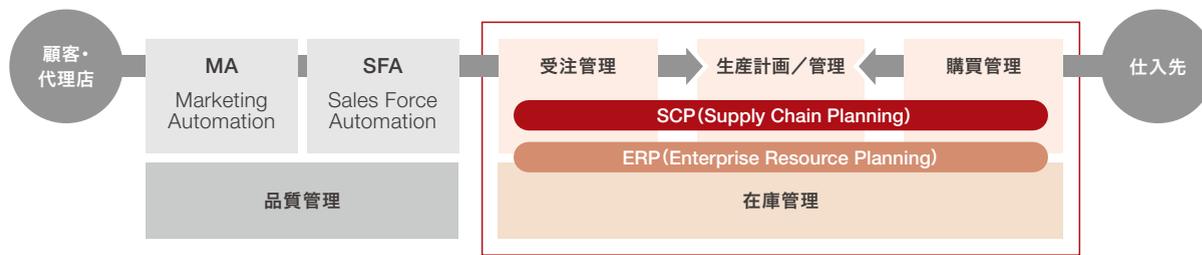
そのコアコンピタンスセンターに属する生産技術センターでは、多様な生産設備を手掛けており、国内外の生産事業所に導入することで、ものづくりの強化を図っています。生産数量や形状が異なる製品群の特性に合わせて、多様な生産方式の中から最適な生産設備を選定し、組み合わせるとともに、IDECのスイッチや安全関連機器などを活用して設備の安全性を担保しています。

体制の強化に加え、グローバルでDXを加速し、業務の効率化と経営のスリム化を図っています。統合基幹業務システムであるERP(Enterprise Resource Planning)基盤の刷新と、SCP(Supply Chain Planning)を実現するためのプロジェクトをグローバルで推進しています。

これらのシステムの導入により、デジタルマーケティングや、セールスフォースオートメーションなどの各ツールとも相互連携し、マーケティング、営業活動から、受注、生産計画、購買、在庫など一連のビジネスプロセスを一貫して管理することが可能となります。

SCPの新システムは、日本での導入が2023年度に完了しており、2024年度から順次グローバルにも展開していく予定です。今後は全グループ会社でシームレスにデータを共有できるようになり、グローバルの需給変動に対応しながら計画策定を行うことができます。

ERPについては、現在導入準備を行っており、新システムの本格稼働は2025年度を予定しています。



SCP・ERP導入後のIDEC本社のシステムマップ例

## 製品品質の向上

IDECグループには、グローバルに多様な文化・価値観を持つメンバーが存在していることを踏まえ、社員全員が等しく高い水準の品質への責任と使命を果たせるよう、IDEC Quality Standardを制定しています。

また、活力のある職場づくりとお客さま満足度向上を目指し、国内外の生産拠点におけるQCサークル活動や、全社品質会議による課題解決のレビューによって継続的な改善を実施するとともに、一人ひとりの品質意識向上を目的に、全社員への継続的な品質教育の実施やQC検定<sup>®</sup>取得の奨励を行っています。

※ QC検定<sup>®</sup>は、一般財団法人日本規格協会の登録商標です。

QC検定<sup>®</sup>の級保持者数 (2024年3月時点)

